|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」 |

ガイド案内

* 会津藩士新国英之助ほか、名もなき兵士20人と長州藩士時山直八のお墓があります。
* 戦いの後、残された東軍兵士、特に会津藩士の亡骸は埋葬することを厳しく禁じられた。しかし、浦柄の人々は「敵も味方もない、死なばみな仏」と言って小栗山の福生寺の助けを借りて供養した。当時、会津藩士と分かった６名は戒名を。その他名前の分からない兵士達も手厚く供養した。
* 現存する墓は昭和２８年に浦柄地区の人々によって建立された。
* お墓の後ろには会津から移された鶴ヶ城吉野（桜の木）が植えられている。
* 境内に残る「戊辰戦蹟記念碑」は当時海軍中将だった山本五十六の揮毫である。

エピソード

* 新国英之助は白虎隊所属であったが、父の源之丞と共にこの地へ来ていた。親子で見張りを任されていたが、５月１３日の奇襲攻撃の敵兵を見つけると源之丞は英之助を起こす間もなく山頂に走り、残された英之助は無念の最期を遂げた。尾根に残された遺体は後に浦柄の人々によってその場に埋葬された。戊辰戦争後２０数年が経ち、明治政府からの許しが出ると、源之丞は浦柄を訪れ、息子が戦死した場所を探し出し墓を建てた。３３回忌まで弔いに訪れ、その後は管理を浦柄の人に託した。
* 時山直八が死んだ場所には看板が建っているが、長い間に崖崩れや、地震の影響で正確な場所ではないらしい。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　メモ